




令和3年7月1日発行
第6号
岡山市教育委員会
生涯学習課公民館振興室
(岡山市北区幸町 10-16,
234-6015)
公民館振興室 HP



緊急事態宣言解除で 公民館活動が再スタート

緊急事態宣言下の公民館の取り組みを紹介します

5月16日から6月20日までの緊急事態宣言下、岡山市の公民館は、主催事業、クラブ講座、貸室をストップしました。そんな中でも、図書の貸出し、オンライン活用、緊急性・必然性のある活動での利用などは継続し、こういう時こそやらないといけないこと、できることを考え、様々な取り組みを進めてきました。そんな中からいくつかをご紹介します。(4面も参照)

操山公民館
「図書貸出」継続が好評

緊急事態宣言により、5月16日から公民館も主催事業等ができなくなりました。そのような状況にあっても、操山公民館では、図書の利用者数は、4月1,019人、5月1,082人、6月1,060人とわずかですが増加傾向を示しました。「県立図書館も市立図書館も休館しているので、公民館の本が借りられて助かった」「子ども連れで出



かけられるところが少ないので、公民館の図書コーナーが開いていてよかったです」という声も多く、微力ながら市民のみなさんのご要望に応

えることができたのではと感じています。

図書利用にあたっては、感染予防のため、滞在時間を短くしていただいたり、密集しないよう窓口で離れて

並んでもらうことをお願いしましたが、みなルールを守って気持ちよく本を借りて帰られました。

図書館のインターネット予約サービスが受けられる公民館が、市内に7館あります。操山も同サービスを行っていますが大変好評です。

今後も赤ちゃんから大人までしっかり本に親しんでもらえればと思っています。



『東公民館お花の銀行』は「おうちで楽しむ公民館活動」です。応募者に公民館が用意した花の種や苗を園芸土や鉢とともにお

渡しし、ご自宅でお花を育ててもらいます。開花したら公民館にお持ちいただいて、花を玄関付近に置いて来館者をお迎えするというものです。

昨年度の7月はミニヒマワリ、11月はスイセン・クロッカス、そして今年度の5月は4種類の夏の花の中から選んでもらいました。これまで公民館を利用したことがない方からも応募があるなど嬉しいこともありました。

来館者はお花を楽しまれていましたし、参加者

は来館のたびにお花を気にかけてくれたり、「自分が育てたのよ」と仲間に自慢していたりと、みんなが笑顔になっています。

コロナ禍で人と人、地域とのつながりが希薄になったといわれていますが、社会や地域、誰かとつながっていることを実感できる取り組みとして、今後も続けていけたらと思います。



東公民館
「お花の銀行」は
おうちで楽しむ公民館活動

4面にも記事
があります。

公民館の実践紹介⑪ 御南西公民館

御南西公民館 若者★プロジェクト ～中学生は地域のミドルリーダー～ 「参加」から「参画型ボランティア」へ

御南西公民館 若者★プロジェクトとは

地域でのボランティア活動がさかんな御南中学校。中学生は地域の様々な行事で活躍が評価され地域の「ミドルリーダー」として頼もしい存在です。そんな中、2019年度から御南西公民館では、「参加」からさらに一歩進んだ「参画型ボランティア活動」を目指して「若者プロジェクト」を進めています。このプロジェクトでは中学生が地域のために主体的に考え、思い描いた計画を実践することで地域が元気になり、中学生自身も自分の力を伸ばしていくことをねらいとしています。

西学区防災講習会で発揮した主体性

今年2月に実施した防災講習会は、西学区住民と中学生を合わせ約100名の参加がありました。今回はやむを得ず座学を中心とした学習活動となりましたが、その中でも中学生の働きぶりはとても頼もしく感じられました。今回中学生達が担った役割は、グループごとにスタッフと会場を準備し、その後必ず一問クイズを出題する防災クイズタイムを自分達で仕切り、最後の防災紙芝居では登場人物を役になって演じました。参加者からは「防災クイズが勉強になった」という感想が寄せられ、スタッフの一人はうれしそうに「にしっこ(学童保育)に来とった子が多かったから知っとる子が何人もおったわ」など子どもたちの成長をととても喜んでいました。中学生も大人と共に協力しあって取り組んだからこそそれぞれの立場で“気づき・学び・つながり”が得られ、次年度につながる地域防災の取組となりました。中学生のESDパスポートの感想を見せてもらうと、達成感、楽しさ、次回への意欲があふれていました。

みんなにしレクリエーションクラブ 2020

この若者プロジェクトの立ち上げのきっかけとなった「みんなにしレクリエーションクラブ」は、中学生が小学生や幼い子ども達に遊びを通して楽しませることをねらいとしています。昨年12月に「冬休みお楽しみ会」を計画していましたが、3月に延期となり、今回は小学生27人の申込みがありました。

約3カ月のブランクを経て、前日に準備で集まった中学生達と活動の目的を再確認し、今回意識してもらいたいことを職員から伝えました。「小学生に楽しんでもらうには、安全・安心が大前提。今回は低学年が多いし中学生と遊ぶのが初めての人もいるか

ら、小学生を安心させてあげてね」と伝えたところ、中学生達のまっすぐな眼差しを見て、「職員言葉が届いているな。きっと大丈夫！」と確信しました。グループごとに3か月前のクリスマスバージョンの計画を修正し、ワクワクと楽しむように準備に取りかかりました。「春休みお楽しみ会」当日は、人間すごろく、爆弾ゲーム、大切な人へのメッセージカード作り、新聞ダンスなど「よく考えたよね」と感心するほど、時間配分・説明事項・小学生の動き・感染防止対策などを盛り込んだ遊びを展開しました。

中でも活動を見守って下さっている地域の方からも「次につながる取り組み」と評価されたのが、「満開の桜の木」を小学生と一緒に作った活動です。中学生が画用紙で作った花びらに小学生が絵や模様を描き、模造紙の木に花びらを張り付けます。併せて、公民館ロビーで展示した桜を見に来てもらえるよう家族に向けての招待状を小学生が書きました。中学生に意図を聞いてみると「コロナ禍であまり外出もできないから公民館でお花見ができたらいいと思って」ということでした。この春休み期間中には、何組かの小学生親子が公民館ロビーの桜を見に来てくれました。「この花びらばくが作ったんよ」と母親に説明する小学生もいました。



芽生えた想いが地域を元気にしていく

活動をとおして公民館(地域)でも活躍の機会があれば中学生もこんなに力を発揮してくれるのかと本当に頼もしく感じます。「若者プロジェクト」では、「参画型ボランティア」として中学生が地域のために「学び→考え→実践する」活動を通して「中学生の想い」が相手に伝わり、相手から「ありがとう」が返ってくるプロセスを大切にしています。

中学生の心を込めた働きかけは地域の人々の心に届き、自然と笑顔が生まれ「ありがとう」の言葉で返され、また中学生の心へ入っていきます。この繰り返しにより「地域の(誰かの)役に立ちたい」気持ちが芽生え、活動を通して地域が明るく元気になっていきます。公民館職員として、その瞬間に立ち会えることに喜びを感じ、益々御南中学校区のまちづくりの力になりたいと思う毎日です。

公民館の実践紹介⑫ 一宮公民館

公民館で子育ての輪を広げよう 「子育て応援サポーターにこっと」の取り組み

子育て中の人気が気軽に集える場を

一宮公民館では、就園前の子どもと保護者を対象にした「親子であそぼう」と「リトミック」を実施しています。ある時、講座途中で帰る人がいたので理由を尋ねると、これから児童館の講座に参加するとのこと。児童館と公民館の活動時間が重なっていたのです。そこで、児童館職員とお互いの活動や地域子育て状況について情報交換を行いました。

ちょうど公民館に託児ボランティアがおらず、久しく託児付講座に取り組めていない時だったので、新たな託児スタッフの掘り起こしを考えていました。公民館講座・おやこクラブに参加している保護者、地域の保健師にも話を聞いたところ、児童館と公民館の両方に行っている人が一定数いること、おやこクラブへの参加が少ないこと、地域の公園が少ないので行き場が限られており気軽に行ける場が欲しい等の要望がありました。

「子育て応援サポーターにこっと」発足

こうした話を受け、就園前の子どもと保護者の居場所づくりや親の学びを支えるための託児スタッフの活動を目指して、平成30年度に「子育て応援サポーター養成講座」を実施し、受講生を中心に「子育て応援サポーターにこっと」を立ち上げました。

立ち上げ後に何度か話し合いを行い、講座の託児と子育てサロンの2つの活動を始め



養成講座の様子

ことが決まりました。早速、防災講座と発達障害学習講座を託児付で募集したところ、それぞれの講座に託児利用がありました。受講者は今まで公民館講座に申し込んだことがない人が多く、託児付にしたことで、子育て世代に広く公民館を知ってもらえる機会になりました。

「子育てサロンにこっと」スタート

子育てサロンについては、他館の子育てサロンを視察して令和元年10月、「子育てサロンにこっと」をスタートさせました。それに先立ち公民館だよりでおもちゃの寄贈を呼びかけたところ、予想以上の

数が集まりました。

初回の子育てサロンには8組の親子が参加してくれました。全員初対面で公民館に来るのも初めてという方もいましたが、気楽な雰囲気とスタッフの笑顔で少しずつみんなの距離が縮まり、終わるころにはお互いLINE交換する仲になっていました。回を重ねる度に口コミで参加者が増え、「同じ月齢の子どものいる方と知り合えた」、「子育ての情報交換ができた」、「育休中にこのサロンがあって良かった」といった嬉しい声を聞きました。



子育てサロンの様子

また、この活動を公民館だよりで知り、サポーターとして参加してくれる人も増えました。参加者もサポーターも、今まで公民館を利用したことのない人が多く、この取り組みを通して新たな人のつながりが広がりました。

「話し合い」を大切に

「子育て応援サポーターにこっと」の活動で大切にしていることは、メンバー同士が集まって託児とサロンの振り返りや様々な情報交換をする、月に1回の話し合いです。年齢別のおすすめの絵本コーナーを作ろうとか、お母さんたちが作れそうなちよつとした物づくりをしてみようとか、様々なアイデアも飛び出して、じゃあまずは自分たちで作ってみよう、などと楽しんでいます。ただし、仕事をしているメンバーもいるため、毎回全員が揃うわけではありません。欠席したメンバーには、会場で出た意見や情報を共有できるよう職員がフォローしています。

コロナ禍で休止…1年4カ月ぶりに再開

子育てサロンの参加者も増え、つながりが広がり始めた昨年3月に、新型コロナウイルス感染症のために子育てサロンは休止。感染症対策などで参加できなくなったメンバーも出ました。それでも集えるメンバーで、再開に向けての話し合いと、「子ども」を軸にした新しい居場所づくりについて話し合いを重ね、7月から子育てサロン再開、秋からはもの作りを通じた世代間交流事業をスタートします。

はなれて つながる 公民館

オンラインを活用した挑戦のご紹介

御津公民館では、昨年度から対面講座ができなくなった場合は、ZOOM アプリを利用して「日本語教室」を行っています。

「コロナ禍でも学びたい！」という参加者の思いに日本語教室の講師が応じて、日曜日の午前と午後の2コースを開講しています。そこでは、日本語の学習が中心ですが、コロナ禍で生活する外国人の悩みや不安が多く語られています。

御津公民館

「コロナ禍でも学びたい」の思いにこたえてオンライン日本語教室

昨年度はそこから、「フード&ドライブ」の活動へとつながりました。家庭で眠っている缶詰などの食糧品や家で作ってい



るお米や野菜などを集め、必要としている外国人に無償提供しました。

地元の町内会も全面的に協力して、延べ 100 名以上の外国人に渡すことができました。

今年度は、新型コロナウイルスワクチン接種に対する不安を感じている人が多いことがわかりました。そこで外国人を対象としたワクチン講座を7月末に実施することにしています。ワクチンについて学び、少しでも不安を解消できたらと考えています。



高島公民館 ネットワークづくりをオンラインで 子育て支援者・支援団体の

6月18日、高島公民館で「ネットワークを作りたい！つながる子育て」講座をオンラインで開催しました。旭竜学区を拠点に活動している子育て支援活動をすすめている「NPO 法人まんなか」のスタッフとの会話の中で、公民館が子育て支援グループをつなぐ拠点となれたらという思いで始まった企画です。

公民館の Facebook や、「NPO 法人まんなか」の SNS で募集し、高島公民館に集まる予定でしたが、緊急事態宣言で臨時休館となってしまったので急遽オンラインでの開催となり



ました。当日は、岡山市子どもセンターのスタッフをゲストに迎え、8団体13人の方が、熱い思いを語り合いました。

子育てを取り巻く状況は社会とともに変化し、支援も多様化していますが、共通する部分や課題もあり、参加者はみな互いに刺激を受けあいました。受講後アンケートでも「つながっていくことができよかった」「シェアできることは宝物」との声が届いています。直接集まることができない状況でもオンラインでつながることができネットワークづくりへの1歩となりました。